

## 公開学習会

### 「共に考えよう！ 高齢化社会のセクシュアル・マイノリティ ～他人事ではない介護・相続問題～」実施報告

性の平等に関する委員会副委員長 松永 成高 (66期)

#### 1 動機

人は誰も歳を取り、いずれこの世を去る。そのため、セクシュアル・マイノリティ当事者や関係者にも、介護や相続といった、主として高齢者に関する問題は生じるはずであるし、現に生じている。

もともと、現在までのところ、セクシュアル・マイノリティに関する問題は、より若い世代を念頭に置いて論じられることがほとんどであったと思われる。社会の理解や制度の整備が未だ十分でないことに起因して、高齢者であるセクシュアル・マイノリティ当事者等が、その権利・利益を十分に保障されない場面は、少なからず存在するであろう。約45年間同居し事業も共同していた同性カップルの一方の死亡に際し、一般参列者として葬儀に参列させ、火葬にも立ち会わせなかった等の遺族の行為が不法行為に当たらないとした大阪地判令和2年3月27日の事例は、そのような場面のごく一例にすぎないものと思われる。

こうした現状に鑑み、性の平等に関する委員会セクシュアル・マイノリティプロジェクトチームは、高齢者であるセクシュアル・マイノリティに関する問題を考える契機となるよう、表題の公開学習会を企画し、2022年3月10日にオンラインで実施した。

#### 2 講演

堂野達之副会長(当時)の挨拶の後、永野靖会員、永易至文氏、佐藤悠祐氏が順に講演を行った。

永野会員は、高齢者であるセクシュアル・マイノリティが関係し得る法律問題について概説した。

行政書士であり、セクシュアル・マイノリティに関する情報や交流の場を提供するNPO法人パープル・ハンズを運営する永易氏には、高齢者が陥りがちな金銭面の問題や、高齢者が活用することのできる制度についてお話しいただいた。

介護福祉士である佐藤氏には、介護の場面で生じた問題や、考えられる対処方法について、貴重な経験をお話しいただいた。

#### 3 ディスカッション

同性愛者であるA氏が、60代後半であり同性のパートナーと同居していること、生活資金、老化と病気、死などについて不安を覚えていることを述べた。A氏は、高齢者特有の問題として、介護が必要になった際、介護士や施設の人がセクシュアル・マイノリティについて理解しているか不安であることや、一方が亡くなった際に財産の承継に支障を来さないよう、遺言書の作成を行う必要があるが、先延ばしにしていることなどが不安であるとのことであった。

続いて、永野会員、永易氏、佐藤氏、A氏をパネラーとして、パネルディスカッションを行った。山本真由美委員の質問にパネラーが回答し、適宜議論を挟むという方法でディスカッションは進行した。

介護の問題については、ホルモン治療やカミングアウトの問題、同性カップルでの施設への入居の問題などについて述べられた。

相続の問題については、遺贈を受けた同性パートナーが遺族から遺留分を主張されること、特別寄与料や配偶者居住権の制度は法文上、同性パートナーを対象としていないことなどについて述べられた。

#### 4 まとめ

参加のための心理的障壁の低いオンライン形式によったためか、参加者は60名という多数に上った。ウェビナーの機能を利用して行ったアンケートは回収率も高く(回答率約43%)、回答者の約6割から「とてもよかった」との評価を頂いた。

本年度以降も、セクシュアル・マイノリティに関する知見を深めることのできる公開学習会を企画していきたい。

